トテ、當國山田ノ庄ノ穢多非人ヲ相催シ乞食多勢ニ、紙小旗ヲ差連サセ、其旗一樣ニ穢多ト云字ヲ書付テ、武士ノ眞先エ押立進マセケル程ニ、流石和州ノ一揆共モ、此小旗ノ文字ヲ見テ、イカナル賤キ我々ニテモ、穢多非人ヲ相手ニシ、合戰ハ成マジトテ、其ヨリ散々ニ成ケル處ヲ、先ノ穢多ヲ押除テ、跡ヨリ武士共進出、一揆ヲ追驅追詰テ、悉ク討捕退治シケリ、

〔靈巖夜話〕太閤秀吉、聚樂の屋形におゐて、伽衆餘多雜談の節、伽衆の中に、世間に、親に生レ增たる子と申は、希成物ニ而候との義を、秀吉聞給ひて、身共抔も其通也と被申候へば、伽衆何も合點致兼候所に、權現樣〇德川家康ニハ、いかにも仰の通りに候との御挨拶ニ付、秀吉御申候は、中納言には御合點と相見へ候、先御だまり有べく候、何もハ何と有之候へば、伽衆何も得合點不仕と申、秀吉重ねて仰候ハ、我等親共の義ハ、定而何も聞及有べし、家來を召仕ふ事も不成樣成微賤の者に候得共、身共を子に得持候、我等は親に生レ劣り、子に事を欠候と被申候と也、

〔温故堂塙先生傳〕これよりさき、大人花咲松と云ふ書をあらはす、こは南朝長慶院と後龜山院との御位の事を論せり、萬〇立原いまだ其說に服はず、問答あまたたびになりて、萬つひに其いふ所をよしとす、これによりて、いよ〳〵大人をすゝめて、このよせあることを得たり、そのをりに、萬の同僚みないさめていひけらく、國史はわが先君の修むる所なり、瞽者をしてその事にあづからしむる、これ我等が恥にはあらずや、むべそのことをとゞむべしと、萬うけずしていふよう、その人の盲たるは病なり、尊卑のいたすところにあらず、然れども常にいはゆる盲人は、世のもてあそびぐさとなる事を勤とす、この故にいやしまれざることかたし、塙は文學を業とし、人多く師の禮をいたして來り學ぶ、其說も又取るべきが多し、さらばいかでか明不明のへだてあるべきや、もし國史の校正にあづかりて補ふ所なくば、萬其罪をかうぶりなんといらへしかば、ついに其事なりにけり、